

## 「キノコを1本見つけたら(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

いよいよ本格的なキノコの季節に入った。長雨のあとや、気温が急に上がると、菌糸が刺激を受けて、子実体(キノコ)が一斉に発生することが多い。キノコは形態も成体も多種多様だが、似たものが多い、種の同定は専門家でも難しい。もしキノコを見つけたら、できるだけ正確な記録をとっておくことが大切である。キノコを採集できなくても、あとから、図鑑やインターネットで調べる時に役立つ。

今回は「ツルタケ」(テングタケ科) *Amanita vaginata* というキノコを見つけた時を例に、記録のとりかたの概要を紹介しよう。



③キノコを掘りだして写真を撮る。キノコは、同定に根元の形状が重要になることが多い。たとえば、フウセンタケ科のキノコは、根元がふくらんでいる。この写真では、根元にツボ(幼菌時の袋状外套膜)があるので、テングタケ科のキノコとわかる。

④キノコを縦に割って、その写真を撮っておく。この作業の重要性は2点ある。一つは、茎の中が、つま



①これがツルタケ。まずは、キノコの写真を撮っておく。スマホでも良い。キノコそのものだけでなく、「どんな場所に発生していたか」という点も大切である。

②余裕があれば、メモも残しておくが良い。私の場合、携帯のボイスメモを使うこともある。記録しておきたい項目は、以下の通りである。

- ・日時、場所(地名)、天気。
- ・植生(樹木の種類、草地、砂地・・・など)
- ・発生場所(枯葉上、土、腐葉土上、たき火あと、枯れ木、生木、動物の糞、虫の死骸上・・・など)
- ・発生状況(孤生、群生、輪生、束生・・・など)



っている(中実)か、空洞(中空)か、という点。この写真のキノコは「中空」である。

もう一つは、茎とヒダの付き方の関係である。直生、離生、湾生、垂生、隔生の5種類がある。このキノコは、ヒダが茎の手前ギリギリでつく「離生」とわかる。

(つづく)